

プラズマCVD加工参入

渗透工業 太陽光・半導体需要狙う

【長崎】渗透工業(長崎県時津町、西亮社長)はプラズマCVD(化学気相成長)加工に乗り出す。太陽光発電向けフィルムの製造装置に使われるローラーなどへの加工需要を見込むほか、半導体や航空機産業など幅広い業種からの需要獲得を目指す。同加工と既存技術を組み合わせることで金属部品の耐摩耗性や耐食性の向上が期待できるといふ。2024年4月の事業化を予定する。

来年4月事業化

渗透工業は自動車部(西社長は「プラズマCVD品など金属部品の表面VVDと拡散浸透技術の処理を手がけ、拡散浸透組み合わせ加工する透処理を得意とする。ここで、耐摩耗性など



工場内にプラズマCVD室を新設した

の面で付加価値の高い」している。既存のダイ技術を提供できる」とヤモンドライクカーボ

ン(DLC)技術の高度化も進め、提供できる技術の幅を広げる考え。

23年8月には本社工場に新たな建屋を建設しプラズマCVD設備を搬入した。政府の「ものづくり補助金」を活用した設備を導入した。現在は社員育成のため、外部講師による技術指導を実施中。加工対象の形状に合わせた電圧や出力の調整を学んでいる。

渗透工業は、金属加工技術など生かして長崎県内の航空機関連産業振興を目指す組織「長崎県航空機産業クラスター協議会」の会員企業。同産業分野ではタービンブレードへの加工処理などを視野に入れる。